

新刊
和歌集

天
正
十
三

81

9利へ
3869
17



新刊句集

利9
3869
17

利 9
號 3369
卷 17

符

翁 困

序

大正七年三月廿日
室井平藏氏贈

此の巻は、
 大正七年三月
 廿日、室井平
 藏氏より贈
 られたるもの
 である。

イナツ 衆人あはれつゝも 森と月の菴
 イミ い川恋とたう ちぬうをさう
 イテ 往々々々 居るさぬ ちぬのあゝ村
 イソ 今さう 居るさう ちぬのあゝ村
 イハ 往々々々 けし 婆とさう ちぬ
 イセ いとゞ 様ハ 妾の 嫁入
 イニ 往々々々 いさゝ 妾の 嫁入
 イク いそがし いさゝ 妾の 嫁入

③

ロヲタ 六天の男 様へ 大 根 干
 ロコス 漁ハ 名 砂 巨 漁ハ 純又 持らう
 ロサコ ろく 漁 名 砂 巨 漁ハ 純又 持らう
 ロウウ 六天の男 様へ 大 根 干
 ロコカ 往々々々 人さう ちぬのあゝ村
 ロヨト 往々々々 人さう ちぬのあゝ村
 ロタキ 往々々々 人さう ちぬのあゝ村

ロヲカ 諸浪貨を造るも走る神の國
 ロコ 魯般ハ意の故に又な後と六
 ロワ 論ト金ふ場を多あてある年
 ロキ 六天ノ裁續乃埋き本
 ロア 論人をつまふ安曆く透老
 ロチ 論り忠義乃中問が邪臣
 ロソ 論ハ彌うけて素讀あへる
 ロク 論後ちうとが口後保せる

(は)

ハマコ ち川様生も毛種ふ日ハ思ふ
 ハウマ 八帝を清孤のていぬる待ぢけ
 ハナミ 漢秋とたつて田舎のふも
 ハヲカ 初あと思へた輕一筆の書
 ハ子ノ 中ふハ森く房うくる旅の仇
 ハハト 花嫁乃と事店やで居る
 ハマロ 母うのやとふハあるさあ女史

ニクナ 人間の唇と撥とう 形一 一張
 ニハ 何れを付るるももを喚ぶ
 ニウ 色ういめうやむやう
 ニク 階へ居れ 手り入る
 ニヒ 階ふてく 今一年 終
 ニマ 色うのう 今一年 終
 ニセ 色うの人と死 終
 ニ 二三十うう 終

⑤

ホウナ 本妻はうう 輝ふあそび
 ホコミ 小あ乃るるを 終
 ホカフ ちるる陰日あ 終
 ホイモ 幸んはいやぶ 終
 ホワク 終
 ホタタ 終
 ホムリ 終

へマヲ 外村へ 穢し 彌次 獄 出 へ へ
 へイ 毫 あり 穢し 石 流 へ へ
 へハ 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し
 へミ 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し
 へハ 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し
 へト 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し
 へテ 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し

(五)

トッワ 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し
 トホカ 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し
 トイッ 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し
 トカッ 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し
 トウヒ 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し
 トシユ 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し
 トキス 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し 穢し

トカナ 得んのかき人 又なぐめらき
 トヲ 子を放さす 後病なまき
 トシ 十日我を 新婢賣り後
 トカ 東が翔ハ 賀の仕人むき
 トフ どのんさうハ 吹降りの傘
 トキ 戸乃兄合な 来よう肉う
 トモ 後乃後傷も 漏りあきり起
 トノ 土儀又湯争の あり取りら

(七)

チナア 町人りぬうとん 張のめ法心さ
 チキテ 又小ぬきの手のめ 末の出末不出
 チカキ 中絶の肩をうけ 死し紙屋の今
 チナヒ 売らるるのわかれ ばるせまの美女の
 チコウ 桑よ鞠よ基よ 花ハ
 チラモ 父母のまゝ合ふく 以
 チコヒ 遠ひまに事をえ付く 低い

[illegible]

(7)
リノミ りんしの^{のぞこ}あをとりあのき
リサカ あらうく様こそ我る勢どり
リニテ 利口そふな女房ちんさん丁児連
リイメ アーサーさむみ月ハ持てぬ孫とて
リチカ あのよに貸^{ちん}おながぎぎ婆おーそ
リスク アん系するあり昔はうゝ果報もの
リミロ あまの系ふハ入れぬこと守

リニカ 情^{りん}を^もとも^もあ^るが^す哭^くる^る 亭^{てい}子^し 結^あ
 リリ 理^りの^り 園^{えん} 慈^じを^をと^とぬ 慈^じ
 リニ 論^{りん}を^をと^とぬ 汗^{あせ} ぬ^ぬ 慈^じ
 リサ 理^りを^をと^とぬ 嘆^{なげ}を^をと^とぬ 慈^じ
 リヒ 桑^{そう} 園^{えん} 慈^じを^をと^とぬ 加^か賀^が 義^ぎ
 リノ 桑^{そう} 園^{えん} 慈^じを^をと^とぬ 加^か賀^が 義^ぎ
 リク 桑^{そう} 園^{えん} 慈^じを^をと^とぬ 加^か賀^が 義^ぎ
 リカ 桑^{そう} 園^{えん} 慈^じを^をと^とぬ 加^か賀^が 義^ぎ

又ハカ ぬ^ぬを^をと^とぬ 加^か賀^が 義^ぎ
 又ユキ ぬ^ぬを^をと^とぬ 加^か賀^が 義^ぎ
 又ニヌ ぬ^ぬを^をと^とぬ 加^か賀^が 義^ぎ
 又トテ ぬ^ぬを^をと^とぬ 加^か賀^が 義^ぎ
 又ヲカ ぬ^ぬを^をと^とぬ 加^か賀^が 義^ぎ
 又ユユ ぬ^ぬを^をと^とぬ 加^か賀^が 義^ぎ

ルマ 守りのあところなる家の内
 ルコ 流浪するものゝ恋の情り
 ルワ 恋のあつたあやうな泣く
 ルシ 恋のあつたあやうな泣く
 ルノ 恋のあつたあやうな泣く
 ルニ 恋のあつたあやうな泣く
 ルハ 恋のあつたあやうな泣く
 ルフ 恋のあつたあやうな泣く

を

フカカ 孝もたう孝もたう家家の孝
 フコツ 大坂のふふがところの孝
 フセモ おごり人の孝
 フホモ 孝を孝と名を孝とせ
 フクハ 孝人ぞと名を孝とせ
 フサメ おりり人の孝
 フニア 孝もたう孝もたう家家の孝

ヲエミ 教へよの役者ようこていもの者
ヲタ 男自慢が激なりうと教へ
ヲル 折りし眼のりるるその長力
ヲハ おどろ子をみる母も心を握る
ヲエ 強つてえせる素人の心
ヲカ 男禁制かめのをへ灸
ヲア おりひ切くくと改な母の苦
ヲイ 確りこころれく今ハ 蛤

①
ヲナロ ぶがこさむ 蛤ハふと死論後僕
ヲコヲ けうけの心ぐくふあつたりと
ヲウセ 糸つきて乳母の薬久る輝の夢
ヲコモ ふ肉より強うけて見るおあそひ
ヲマア ちあきよ心かくされて胡蝶とる
ヲソホ ちあきよそくてとるほろこさす
ヲカコ ちあきよれの親が恋しくなり

タス タ ちまうをめく達ぬ堂をくく
 タリ たがふよきり利益なく明
 タヲ 大車の手どやとあふさびく
 タワ 堅きりなぐきをくくる友川
 タツ 大それたその月も揺るふく
 タセ 出くくくくくくくくくく
 タシ 龍のまを志くくく 相 起
 タテ 港 龍を志くくく 天土寺出 了

⑨

レレテ 例年の冷酒よこする今期の春
 レニフ 零落の庭よこする今期牡丹
 レヲサ 料理人あつて廻るやう
 レノッ 領事あつて廻るやう
 レヤ 領事あつて廻るやう
 レユム 領事あつて廻るやう
 レッマ 領事あつて廻るやう

レサマ 買^ミの 妙^{ミョウ}は 妓^{オヤ}婦^フか 糸^{イト}の
 レホ 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の
 レク 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の
 レヒ 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の
 レヲ 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の
 レヤ 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の
 レフ 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の
 レイ 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の

③

ソノハ 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の
 ソコフ 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の
 ソハイ 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の
 ソイテ 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の
 ソダク 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の
 ソラモ 糸^{イト}の 罫^ハの 罫^ハに 糸^{イト}の

ヲソソ そのうへを渡すところを舟で渡
 ヲム 僧のききし人むくさるを胡
 ヲケ 翁のききし人むくさるを胡
 ヲヨ 翁のききし人むくさるを胡
 ヲカ 翁のききし人むくさるを胡
 ヲツ その智あるまど付る舟のび
 ヲト それいふふまど付る舟のび
 ヲア 翁のききし人むくさるを胡

ヲマハ 翁のききし人むくさるを胡
 ヲイミ 翁のききし人むくさるを胡
 ヲカム 翁のききし人むくさるを胡
 ヲホミ 翁のききし人むくさるを胡
 ヲキウ 翁のききし人むくさるを胡
 ヲヨミ 翁のききし人むくさるを胡
 ヲカシ 翁のききし人むくさるを胡

子トキ 森入^ここみとさうへ運^{とこ}ぶ行^{とく}者^が備^ひ
 子ハ 眠^ねつゝあうく 葉^は様^{よう}の 鱈^{たら}
 子ム 鯉^り甲^か斐^ひを むぶひの 鱈^{たら}
 子ヨ 葉^は耳^{みみ}へあう 鯉^りを 鱈^{たら}
 子ケ 根^ねととさうめさうとさうと
 子テ 仏^{ぶつ}衛^ゑへ丁^{てい}児^におて入^い
 子メ 孫^{そん}里^り張^{ちやう}書^{しよ}面^{めん}ぬげバ 極^{ごく}
 子ア ちやうとさうれと 胡^こあその 鱈^{たら}

な

ナイヲ 名^なのこあの入^いぬ修^{しゆ}家^かとぬとべ
 ナハミ 名^なのの暖^{ぬる}いさうも耳^{みみ}備^ひと
 ナハヨ ちやんとさうめさうとさうと
 ナシコ 南^{なん}風^{ふう}いさうめさうとさうと
 ナタモ 嫁^{よめ}乃^の伴^{ばん}とさうめさうと
 ナカメ 何^{なに}くぬれもさうめさうと
 ナヲハ 七^{しち}人^{にん}のおうを 鱈^{たら}とさうと

ナカマ 注^{ちゅう}入^{にゅう}して 虎^ことらうして 町^{まち}より 暮^くる
 ナノ なんの 味^{あじ}も 死^し 野^のの 木^きの 木^き
 ナイ 仲^{なつ} 舌^{した}ハ 汗^{あせ}を 入^いして 追^おうけ
 ナニ 何^{なに}も 喰^くはさ だ ちうを もて ちう
 ナツ 虫^{むし}も きこ 日^ひも 掃^{はき}も 思^{おも}う 塙^{はたけ}
 ナフ 割^わ 際^{さい}も 早^{はや}い 毎^{まい}乃^の 同^{どう} 家^{いえ}
 ナキ 何^{なに}も 咄^{はな}と ちう ちうの 木^きの 晩^{ばん}
 ナカ ちうの 味^{あじ}も ちう 川^{かわ} 木^きの 木^き

⑤

ニモチ
 テララ
 ラ子ム
 ラアウ
 ラムク
 フシハ
 ラマヤ
 老人よりこれよりけぬ知恵を満り
 増あけてらしい徳らしい風俗
 清く又あま果報の娘も
 楽あやうぐ義な妓婦、精細の糖
 浪人の娘を松の佐よりは
 為をあらうともせんおやうに
 老人よりおどさう、家、あはれ

ラロト 来年を第ふ鬼^{おに}連^つ年^{とし}終^はり
 ライ 葉^は々^々と隠^{かく}居^ゐ痛^{いた}が一
 ラ下 漢^{かん}の中^{うち}に汗^{あせ}のり^りのり^り
 ラヒ 楽^{らく}焼^やき^やハ人^{ひと}極^{ごく}が入^いる
 ラト 来月^{らいげつ}おやかと飛^とんぞ^そ以^もて
 ラヤ 老人^{らうじん}のそ^その^の世^よを^を暮^くれ^る
 ラメ 雷^{らい}と花^はび^ひ込^こみ^み飯^いを^を踏^ふむ^む
 ラル 葉^はと伸^のと^とる^るさ^させ^せる^る

(む)

ムフカ 麦^{むぎ}葉^はの^の節^{ふし}と^とあ^あり^り一^{いっ}杯^{ぱい}あ^あそ^そび
 ムヒカ 舞^ま臺^{だい}の^の中^{うち}に^にあ^ある^るの^の花^は
 ムニコ 雲^{くも}干^{かん}の^の身^みあ^ある^るの^の衣^え
 ムシヒ 近^き火^ひへ^へ辞^じ言^{ごん}さ^さる^るこ^ころ^ろに^にあ^ある^る
 ムウウ 木^きの^の身^みの^の人^{ひと}呵^か人^{りて}よ^よう^うや^やま^まれ
 ムキア 娘^{むすめ}と^とあ^ある^る体^{てい}を^をせ^せる^るあ^あや^やど^どり
 ムテヲ ね^ねど^どく^くと^と寺^{てら}の^の世^よに^にあ^ある^る女^め取^と

ウヲタ 疑^{うた}つぬ ま^まト^とう^うで^でづ^づ 流^{なが}る^るを^をぞ^ぞア^ア
 ウキ う^うぐ^ぐひ^ひを^を 起^おき^き 踊^{おど}る^るを^をよ^よむ^む 堂^{どう}
 ウハ う^うさ^さぬ^ぬほ^ほど^どに^に 流^{なが}り^りむ^むと^とさ^さ
 ウホ う^うー^ー強^つく^く 水^{みづ}す^すめ^め 色^{いろ}の^のつ^つを^を
 ウラ う^うま^まう^うさ^さ 流^{なが}る^るさ^さお^おう^うさ^さ
 ウユ 腕^{うで}ま^まぐ^ぐ 菊^{きく}石^{いし}ろ^ろ乃^の 人^{ひと}
 ウミ う^うら^らま^まづ^づー^ー 流^{なが}る^るさ^さよ^よい^いむ^むハ^ハ
 ウサ 運^{うん}を^を 自^{みづか}ま^まん^ん 笑^{わら}そ^そら^ら 危^{あや}

の
 ノカコ 能^のを^を夫^そ門^{もん}に^にれ^れ中^{ちゆう}で^でが^が 近^きき^きう^う
 ノマツ 溪^きま^まで^でも^もも^もぬ^ぬ 狗^{いぬ}の^の園^{えん}へ^へ 虎^こ
 ノヒヒ 穢^{けが}れ^れぬ^ぬ日^ひハ^ハ女^に房^{ぼう}の^の勢^{せい}ぞ^ぞろ^ろ
 ノカ尸 此^こぞ^ぞと^と 舞^まう^うる^ると^と 天^{てん}の^の川^{かわ}
 ノシト 糸^{いと}の^ので^で芝^し居^いへ^へ 柳^{やなぎ}も^もを^をあ^あさ^ささ^さ
 ノミホ ち^ちま^まあ^ある^る身^みを^をけ^けい^いせ^せぬ^ぬ 惚^ほら^らま^まる^る
 ノウテ 糸^{いと}の^の中^{ちゆう}を^を色^{いろ}づ^づて^てお^おる^る で^で門^{もん}ち^ち

ノイナ のとんで居る友だちとてあぢやう
ノキタ 延より系よつゝのうゝ言瀬ぢや
ノヨワ 此ぞうゝ人より親く人美しき
ノキク 此くくゝと狐のやうな舌する
ノクハ 春とんでくゝ人の多し母より
ノノ 能書によめぬが 見半 ちやう
ノ子 のらゝ来て 秘る 森どころする
ノホ 神がけのめとらゝやまゝしゝより

クオオ 元日も同くふゝ大煙
クヤイ 雲井くゝ較へのあゝ一軒家
クニカ 来る人ゝ遊ぶ人あゝからん
クヨア 曲端ふゝよゝ美さゝと長ぐ
クトウ 茶ももどくふゝぬきれつゝ
クイタ 軍法でいのちゝゝる 雲
ツモオ 首飾のふゝる 美と美と

クアヘ 茶湯の何んまと茶へ毎南持
クコカ 九茶と茶うむやうよかこいもの
ノカナ 来る客と焼して茶の仲みども
クウナ 元月いいうの茶よも名がかり
クオミ 榎もかひい切つるるあとり
ク子 若くおはさせ茶の産月
クミ 金所やつもさるる乃泥が出来
クア 若くある人よあふと茶のりて

①

ヤヒチ 山雀ハ孫ハ孫ハらうあうど
ヤヒニ かくそくはらうと遠くをたう
ヤアミ 病母がまうとあうと仕やう
ヤラコ ちぶ入がまうとさうとあう
ヤヒコ 釣あの日ハ定まうとすあう
ヤウヤ 山の草が鯉より下女の茶入
ヤナタ 山科ぐ地を穿つあうの鯉をた

一オウ 焼とそくふ古くくされて後名
 一ヒ ちよん二日を 雛の世 豊
 ヤ 山ろの尾のうくそある文
 ヤ ちとんと芝をいしくみく
 一ナ 矢解のハ女房 ちいさうやと
 ヤ 山雀の 輪をくぐるそくそく
 ヤ 強が降ろともまいと城うく
 ヤコ 八十あうけと 船一 輪
 ヤフ 八十八

一マセシ 迷い子と世にふくやちけく
 一マアタ 又おちあふとそくそく
 マカハ 生人 顔くくそくそく
 マクコ ちよん二日を 雛の世 豊
 マレ 山ろの尾のうくそある文
 マツウ ちとんと芝をいしくみく
 マカナ 矢解のハ女房 ちいさうやと
 町風 強が降ろともまいと城うく

ケトキ 源左の逢中であて病つてむ
 ケハオ 佐々木氏のあつておつてむ
 ケウイ 毛のあつておつてむ
 ケカオ 下戸のあつておつてむ
 ケムア 下戸のあつておつてむ
 ケヨ 下戸のあつておつてむ
 ケウ 下戸のあつておつてむ
 ケテ 下戸のあつておつてむ

フセト 山と小使であつてむ
 フニワ 二人めの女房のあつてむ
 フフハ 不持のあつてむ
 フウニ 佛のあつてむ
 フシサ 佛のあつてむ
 フハハ 佛のあつてむ
 フオカ 佛のあつてむ

フッア ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 フミタ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 フツカ ニッちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 フサシ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 フシコ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 フタ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 フ子 ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 フエ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん

②

コエイ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 コカコ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 コキケ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 コイシ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 コツカ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 コハキ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん
 コホウ ちやんやん ちやんやん ちやんやん ちやんやん

コモソ 子どもねえらて家音ハそらね
 ココ 隠れ女ニ十此里
 コヲ みの成人よおそれい
 コト 災うのみりあざ何あて文
 コミ 子ねうこそふ身仕思ひう
 コカ 小判ハこそまがぬ
 コケ 愛とうさづくけきと
 コウ 子可也さううつうとせぬ

て

テアハ 出合宿秋もいそぬ
 テハフ 泥中の蓮親あり
 テナイ 子子のまにぬてまて家借
 テシヒ 出女の白き紙撰て日かくさる
 テハシ ぶんぐくでまも事思る
 テアト 出都るふねをよびさぬ
 テシハ 貞節の仕うちも

テニカ ちの^こねぬ^こ庭^にち^もう^い一^つ 風^も遠^く
 テモ 寺^う々^々 里^{さと}一^つ 早^さ々^々 び
 テエ 蟻^あ又^{また} 蟻^あら^けき^て 鈴^{すず}一^つ ち^がし^く
 テソ ち^は紙^し ち^きく^く ち^は降^ふち^はち^き
 テッ 寺^う子^この^うち^に 付^つる^土と^一
 テハ 家^け々^々 蟻^あ々^々 世^よ 八^は味^み 利^り出^でと^一
 テテ 子^こ子^こ 梁^{りやう}ち^て 子^こ子^この^ち 誠^{まこと}す
 テ ち^はち^はう^う ち^はち^はと^と 眞^{まこと}一^つ 追^おう^け

あ

アハモ 秋^{あき}と^と 家^け々^々 平^{へい}家^け ち^はち^はう^う
 アソヒ 蟻^あの^の ち^はち^はと^と 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々 宿^{しゆく}
 アキイ 蟻^あ々^々の^の 蟻^あ々^々 二^に代^{だい}目^めの^の 蟻^あ々^々
 アサヒ 蟻^あ々^々の^の 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々
 アキモ 蟻^あ々^々の^の 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々
 アムス 蟻^あ々^々の^の 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々
 アフサ 蟻^あ々^々の^の 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々 蟻^あ々^々

ア ニ ヨ
ア イ
ア ュ
ア ツ
ア ト
ア カ
ア ナ
ア キ

あゝとく ちる ける の 體 武 者
朝 顔 や な ま い ふ も そ こ
仇 も ま げ 踏 ふ こ 事 事 髪
り 脚 の 湯 を ま ぎ の う け
あ く び の 乃 花 な 踵 宗
合 せ 後 ま 肩 の け が 飛 ぶ
上 へ 人 が 美 男 長 ぶ 赤 ぶ
秋 の 葎 け 事 の 長 い 事

(二)

草薺あんなの葉ハ種ト入ノ源とぞす
さめくそくとけへるきこえなるちうり
せむいん侍の世間もみこそて異ゆー
さぐやけば流こどもをふまへのよはに
さうぶんお後より女房がしゝ里換げなれ
さもゆるみのところから大坂の端
ころろ誘ひ人の思量にも負けてみを運ぶ

サカツ 霸王樹乃 修も小唄とすの苗と
 サア 草書より留く星とて 忘るゝ
 サイ さびしい方へい 暇を
 サヨ 再嫁の神り 地かけ入る
 サヲ 咲とむろの 踊る人乃 庵
 サ 細くのさきと 極本をの雪
 サミ ころ味録引く ころもころれぬ
 サヒ 酒のころかつ 百々の 樂

(3)

キムノ 清きよなるねむり が増と後の月
 キカヒ 窓のきよなる 街の人ぐ なるゆけ
 キヤウ 空のふりて 庵で 揺る 後の月
 キツカ 空の清く 次ふふ 二枚 ぬく おく
 キツハ 空の清く ね 神外へ おく 花より
 キノツ 空のふりて ぬ ね 連る 花より
 キサシ 狐火もさう ぬく ぬく 虫と 花

キスヤ 新よりん海あり一柳う那
 キクダ 切級の小づでさびーと暮る
 キトハ 幸い先くとく女れそーや
 キテカ 縁銀でも事ぬハおもてんこ
 キニ させらでさう國をまじり場
 キム ころいるちぐい妻と喰さぬ
 キヨ くらんが妻り 親とこ人
 キカ 葉の申う 柳のこころう

⑤

ユスモ 夕立ぐするや村中がめうど
 ユシメ 湯より女に方一賑とくむ
 ユヒカ けちぐふ人よんすは島がさる
 ユトマ ぬくどき時が女房のぬもさる
 ユアソ 湯で米を洗ひあぐもさる
 ユトア 香い目よとけて一目とあり
 ユ井モ 振おてる柳のお葉い

ユヤヒ ゆんしん ちやうとあまの目かき
 ユアウ くのあま ちやうとあまの目かき
 ユレヤ タミグハシ ちやうとあまの目かき
 ユハテ ちやうとあまの目かき
 ユオ ちやうとあまの目かき
 ユス ちやうとあまの目かき
 ユキ ちやうとあまの目かき
 ユヌ ちやうとあまの目かき

め

メキキ 目かき
 メフユ 名月の船
 メアロ 名月の船
 メツ 名月の船
 メカ子 名月の船
 メテタ 名月の船
 メコキ 名月の船

メキテ 名傍と偏依をうぐまど火宅
 メカ 目見へ虎を虎とり 虎ハ
 メシ 女支出ぬを文ふぬと依起
 メツ ぬぐもろど洗るる實徳
 メセ 圓利の遠ふ禪傍の年
 メヨ 名所殺ハハ 安 安
 メホ 目ろ利ろて常進ッ かけ
 メイ 名所の事危のいそぐハ 際け

⑤

ミサニ つるこいさびしき名ニ二款兼座
 ミエク ミエん酒は碓る虎の園を失
 ミナヌ 味家といろくばふ実家ハ
 ミナタ 見ろものもろくて眼く立止王
 ミケト 道の死と消しとふと同女房
 ミカサ 足合の日れ髪て親の髪が入
 ミカヨ 衣へ筆かひよりしとよい

えカヨ 足らぐ 船うき へいよう ちや
 えカサ ちやう かん 人も けい ちや
 えカム りん 肉な 船の 船の 船の
 えシ 水ハ 曲 へい 船 ちや
 えカ 足ら ぐ 船 へい 船
 えカ 足ら ぐ 船 へい 船
 えキ 船 へい 船 へい 船
 えウ 足ら ぐ 船 へい 船

志

シカリ 正 船 へい 船
 シココ 船 へい 船
 シニト 船 へい 船
 シヨク 船 へい 船
 シムオ 船 へい 船
 シシラ 船 へい 船
 シト 船 へい 船

シムシ 知れぬ心 猶う時々の隙に明
 シノノ ちん町と 遠きよん けり
 シキア 新嫁の糸 ねん けり
 シリヨ 糸の座の へん けり
 シサ 糸の へん けり
 シイ 糸の へん けり
 シ 隙に へん けり

(あ)

エニク 隙の森乃 微ふと へん けり
 エイテ 隙の森乃 微ふと へん けり
 エスナ 隙の森乃 微ふと へん けり
 エフヲ 隙の森乃 微ふと へん けり
 エサウ 隙の森乃 微ふと へん けり
 エニテ 隙の森乃 微ふと へん けり
 エセク 隙の森乃 微ふと へん けり

エフス 名はくそ 肉を焚くあり 蝶掛
 アウ 涙の飛をうける 常
 エツ 名はく 何の中へツイ入る 家
 エイ 常 題の色を 一門なり 偽
 エス 易のときをうハ 輝がまいる 常
 エサ 律多の池も 咲けむさる 家
 エミ 酔うて 常 勢 ころめなる 家
 エト 重けのなるある ころめなる

①

ヒツカ 日の出をマヤと名のぬ門を掃く
 ヒミハ 人を掃身ハ耳ころ 律多と
 ヒサシ じん 何うのころ人をやぶる 常
 ヒトコ 病人の向ふを 掃く 常
 ヒヤア 日暮りよ 常 可く 掃く 常
 ヒトノ 年も けも 常 掃く 常
 ヒモエ 人よ 掃く 常 掃く 常

ヒヨム 倅おのふ女房でむごう老
 ヒフ 久しうなる降まを
 ヒク ひくうさくるえ日の
 ヒヤ 人なういふ吹のあめ
 ヒキ ひきううをうぬき
 ヒモ 目わがくばるふと降る
 ヒシ 女が通うと森に人
 ヒハ 拍ふか合ふとハ羽りなる

(3)

モトノ 又音まきてんを利寸所は
 モハ 夢と知る仲長よまて後ま
 モイイ 門前の市よまて
 モスア どのいさぬ視を伽の秋の
 モケミ みるま 押り下女が報やで
 モアウ くらふも飽くはる友よ
 モシテ 妾はあをみそて出閑

モトヒ 房よりハ通るぬ景より日をきり
 モラ ねらるるつと 勢あるを釈する
 モナ ともふりたりきふと 常解く
 モイ 餅ぬき 菜ぬき 家の為ぬき
 モシ 哲とものきりと 寂し
 モエ あよさハぬ 辨中
 モミ どのつとれよりある 仁人
 モト 勿体なれも 時よりくるさへ

④セ

セセセ 正徳の世なる一とく 吾にち
 セタヒ せつらるる 南産性やそ一人のみ
 セホク 仙童より 江の邊あがくといはれ
 セシタ 千尋も ぬく 飯家 建大 法中
 セサリ せぐれより ぬき 高利多し
 セ子ヒ せむし 内 櫛の 雪し 欠 百万人
 セオ 雪隠と ぬき ち けり けり

セク 妻お納ごん思人なうん
 セト 道は入ル友遊とす月
 セム 鏡とけうてむすめ賣らう
 セノ 妾あいのぞくふあま
 セム 器季の号ねるの合やう
 セウ 帳のこへアノ乳母の孫ごめい
 セウ 脊中どし孫てうといふ中け
 セナカ 千人の中へくらゐるかすり 疵

す

スハユ 好さうそふ人りてゆごんせぬ
 スノサ 角かとり妹のうげで酒つく
 スアシ ずぶん坊は誤つて花はばらち
 スヒヲ 娘のしらびんやう孫が返うける
 スカヒ 珍むしと買てとふいもひらう孫
 スヨウ ずいふ数の結さおつぬ肉とんえ
 スナイ 糠あまふなる本まあのいこころさ

スレセ 釋とらうーと 終 終乃せき一トツ
スコタ きらりとのみいやうーある 終とらうー
スグ 終でもてん 終ら 終ら 終ら 終ら 終ら
スオ 終と 終て 終て おの 終て ア
スチ すぐり 終ら 終ら 終ら 終ら 終ら
スイ すい 終ら 終ら 終ら 終ら 終ら
スタ 終ら 終ら 終ら 終ら 終ら
スエ 終ら 終ら 終ら 終ら 終ら

天保十三寅年季冬補刻

書 林

鹽屋平助

大坂心齋橋通北久富寺町

版

鹽屋平七

